

整理番号	ニューガラスC&C 420ml×24/CS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11.08

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	ニューガラスC&C 420ml×24/CS
製品コード	1788
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1-1
担当部門	技術開発部
担当者	篠原智光
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	窓ガラス及びガラス製ミラーの洗浄用【業務用】
作成日	2009年2月10日
改正日	2016年6月22日
整理番号	1788-03

2. 危険有害性の要約

GHS分類

エアゾール	区分 2
引火性液体	区分 3
皮膚腐食性／刺激性	区分 3
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2A

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

可燃性／引火性のエアゾール
 高压容器: 熱すると破裂のおそれ
 引火性液体および蒸気
 軽度の皮膚刺激
 強い眼刺激

整理番号	ニューガラスC&C 420ml × 24/CS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11.08

3. 組成、成分情報

化学物質 ・ 混合物の区別

・ 混合物

成分名／化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
プロピルアルコール	1～5	67-63-0	(2)-207
ノルマルブタン	3未満	106-97-8	(2)-4
プロパン	3未満	74-98-6	(2)-3
イソブタン	1未満	75-28-5	(2)-4
非イオン系界面活性剤	1未満	非公開	非公開
陰イオン系界面活性剤	1未満	非公開	非公開

PRTR法報告物質

非該当 該当物質は含有するが、1%未満。

毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有するが、規定量以下のため非該当。

労働安全衛生法

通知物質： 法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

制令番号 物質名	含有量
482 ブタン	1～5%
494 プロピルアルコール	1～5%

有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有するが、5%以下。

4. 応急処置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着したところをよく洗うこと。
- ・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
- ・気分が悪くなった場合は、医師の診断を受けること。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。

整理番号	ニューガラスC&C 420ml × 24/GS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11.08

目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・洗浄後、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・特になし

医師に対する特別注意事項

- ・特になし

5. 火災時の措置

消火剤

- ・粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水

使ってはならない消火剤

- ・水を消火に用いてはならない。

火災時の特有の危険有害性

- ・燃焼ガスには、一酸化炭素等の他、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。
- ・当該製品は着火後爆発の危険性があるため、直ちに避難する。

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

整理番号	ニューガラスC&C 420ml × 24/CS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11. 08

- ・ 周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・ 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
- ・ 容器が高温で破裂する恐れがあるので消火活動には十分距離をとる。

消火を行う者の保護

- ・ 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・ 消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・ 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・ 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・ 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・ 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・ 風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・ 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・ こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項

- ・ 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収、中和

- ・ 少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・ 大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・ アルカリ性の製品なので、必要があれば酸(希塩酸、希硫酸等)で中和する。
- ・ 回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・ 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・ 漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
- ・ 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する
- ・ 火花を発生しない安全な用具を使用する。

整理番号	ニューガラスC&C 420ml×24/GS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11.08

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。
- ・裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。
- ・熱・火花・裸火・高温のもののような着火源から遠ざけること。
- ・容器を接地(アース)をすること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・火花を発生しない工具を使用すること。
- ・防爆型の電気機器(換気装置、照明機器等)を使用すること。
- ・規定時間以上噴射しないこと
- ・火気を使用している室内で使用しないこと
- ・漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
- ・アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・人体に向かって噴射しないこと、また噴射気体を直接吸入しないこと
- ・取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。
- ・取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。

保管

安全な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
- ・涼しい所、換気の良い場所で保管すること。
- ・湿気の多い所、水周りなど容器が腐食しやすい場所におかないこと
- ・熱/火花/裸火/高温のもののような着火原から遠ざけること。
- ・酸と一緒に保管してはならない。

安全な容器包装材料

- ・特になし

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- ・屋内は全体に換気する。換気の悪い場所及び蒸気が発生の多い場所には局所排気装置を設ける。

整理番号	ニューガラスC&C 420ml×24/GS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11. 08

記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名/化学名	管理濃度	許容濃度
プロピルアルコール	200ppm	日本産業衛生学会 (2005 年度版) 400ppm 980mg/m ³ ACGIH (2005 年度版) TLV-TWA 200ppm TLV-STEL 400ppm
ノルマルブタン	-	日本産業衛生学会 (2005年版) 500ppm ACGIH (2005年版) TLV-TWA 800ppm
プロパン	-	日本産業衛生学会 (2005年版) 設定されていない。 ACGIH (2005年版) TLV-TWA 1000ppm
イソブタン	-	日本産衛学会 500ppm, 1,200mg/m ³ (2009年度) ACGIH TWA 250ppm (2009年度)

保護具

呼吸器の保護具

- ・保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

- ・保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

目の保護具

- ・保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・保護衣、保護前掛け等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 白色半透明液
臭い	: 香料臭
臭いのしきい値	: データなし
pH	: 10.0~11.0
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: 51℃
自然発火温度(発火点)	: データなし
燃焼性(固体、気体)	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし

整理番号	ニューガラスC&C 420ml × 24/CS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11.08

蒸発速度	: データなし
比重	: 1.00
溶解性	: 水に溶解
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度 (粘性率)	: データなし
その他のデータ	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・ 通常の手扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

- ・ 強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発をもたらす。

避けるべき条件

- ・ 加熱・熱源・裸火
- ・ 強酸化剤との接触を避ける。

混触危険性物質

- ・ 強酸化剤(引火性物質のため、強酸化剤との接触を防ぐこと。)

危険有害な分解生成物

- ・ 特になし

その他

- ・ 特になし

11. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ プロピルアルコール

《急性毒性》

経口：経口ラットD50 = 5280 mg/kg(EHC(1990)、SIDS(1997)、5500 mg/kg((EHC(1990)、SIDS(1997)、CERIハザードデータ集(1999))、5480 mg/kg(EHC(1990)、PATTY(1994))、4710 mg/kg(EHC(1990)、PATTY(1994)、SIDS(1997)、1870 mg/kg(CERIハザードデータ集(1999))があり、それらの統計計算で求めた毒性値は3437 mg/kgとなることから、区分5とされた。

経皮：ウサギLD50 = 12870 mg/kg(EHC(1990)、PATTY(1994)、SIDS(1997)、CERIハザードデータ集(1999))および4059mg/kgCERIハザードデータ集(1999))があり、これらの低い方からの値から、区分5とされた。

吸入(蒸気)ラットLC50(4時間蒸気暴露) = 72600 mg/m³(29512ppm)、EHC(1990)、PATTY(1994)、SIDS(1997)および29620ppm(72865 mg/m³)(CERIハザードデータ集(1999))に基づき、いずれもミストを含まない蒸気での暴露におけるppm濃度基準値の区分5の範囲をこえていることから、区分外とされ

整理番号	ニューガラスC&C 420ml × 24/CS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11. 08

《皮膚腐食性/刺激性》

EHC 103(1990)、PATTY(4th, 1994)、ECETOC TR66(1995)、CERIハザードデータ集(1999)のウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なし、または軽度の刺激性の報告があるが、EHC 103(1990)のヒトでのボランティアおよびアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さないとの報告から、区分外とされた。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ECH(1990)、SIDS(1997)、PATTY(1994)、ECETO TR(1992)CERIハザードデータ集(1999)のウサギでの眼精刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていないことから、区分2A-2Bとされた。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性: データなし

皮膚感作性SIDS(1997)のモルモットのビューラー法による皮膚感作性試験では陰性であった。一方、ECH(1990)の皮膚炎発症例でIPAのパッチテスト陽性例には、低分子の1級または2級アルコール、プロピレンオキサイドにも陽性を示しており、IPAが原因物質か否か明確でないことから、データ不足により分類できないとされた。

《発がん性》

IARC(Access on Oct 2005)でグループ3、ACGIH(2003)でA4に分類されていることから、区分外とされた。

《生殖細胞変異原性》

SIDS(1997)のin vivoでのマウス骨髄細胞を用いた小核試験で陰性であることから区分外とされた。

《生殖毒性》

ECH(1990)、IARC(2005)、PATTY(1994)のラットでの飲水投与による2世代養殖試験では、養殖能および出生子の発育に影響なかった。一方、ECH(1990)、SIDS(1997)、ACGIH(2003)のラットでの発育毒性・催奇形性試験では、催奇形性はなかったが、親動物に体重増加の低下、麻酔作用等の毒性を示した用量で、妊娠率の低下、吸収胚の増加、胎児死亡の増加等の生殖毒性が認められた記述から、区分2とされた。

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

PATTY(1994)、ACGIH(2003)のラットでの吸入暴露による活動性の低下があるとの記述、およびACGIH(2003)、CERIハザードデータ集(1999)のヒトでの経口摂取による急性中毒では消化管への刺激性、血圧、体温等の低下、中枢神経系、腎臓および全身毒性と判断し、区分1とされた。また、ACGIH(2003)のヒトで鼻、喉への刺激性が認められており、気道刺激性があると判断し、区分3とされた。

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

ECH(1990)のラットでの86日間または4ヶ月間吸入暴露試験で、血管、肝臓、脾臓に影響が認められたとの記述から、標的臓器は血管、肝臓、脾臓であると判断し、区分2とされた。なお、区分2のガイダンス値を超える投与量では、腎臓への影響および麻酔作用が認められている。

《吸引力呼吸器有害性》

ヒトに関する情報はないが、ECH(1990)、PATTY(1994)のラットでの気管内投与により、24時間以内に心肺停止による死亡が認められており、かつ、動粘性率は概略1.6前後であることから、吸引力呼吸器有害性があると判断し、区分2とされた。

・ ノルマルブタン

《急性毒性》

経口: GHSの定義による気体

経皮: GHSの定義による気体

吸入(ガス): ラットLC50(4時間)値: 277374ppm(ACGIH(7th, 2001), DFGOT vol.20(2003), PATTY(4th, 1994), 産衛学会勧告(1993))に基づき、区分外とした。

吸入(蒸気): GHSの定義による気体

吸入(粉じん、ミスト): GHSの定義による気体

《皮膚腐食性/刺激性》

データなし

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

データ不足のため分類できない。DFGOT vol.20(2003)にウサギの眼を刺激しないと記述があり、ヒトのガス暴露例に眼刺激性は報告されていないが、明確に有害性を否定する記述がないことから、データ不足のため分類できない。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性: データなし

皮膚感作性: データなし

整理番号	ニューガラスC&C 420ml × 24/GS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11. 08

《生殖細胞変異原性》

細菌を用いる復帰突然変異試験で陰性の結果(DFGOT vol.20 (2003)ほか)があるが、in vitro試験のデータしかないため分類できなかった。

《発がん性》

データなし

《生殖毒性》

データ不足のため、分類できない

《特定標的臓器毒性》(単回暴露)

ACGIH (7th, 2001)ほかの、ヒトにおいて高濃度吸入で麻酔作用または中枢神経系抑制を示すとの記述から、麻酔作用があると考え、区分3とした。

《特定標的臓器毒性》(反復暴露)

ラットの反復吸入暴露試験(イソブタンやペンタンとの混合物)で毒性が認められなかったとの記述がある。一方、ヒトの麻酔目的での反復吸入暴露例の多くに多幸感および幻覚がみられたとの記述から中枢神経系に影響する可能性もあるが、他に反復暴露のデータはなく、データ不足のため分類できない。

《吸引性呼吸器有害性》

GHSの定義による気体

・ プロパン

《急性毒性》

経口: GHSの定義による気体

経皮: GHSの定義による気体

吸入(ガス): モルモットでのLC50(2時間)値: > 55000ppm(4時間換算値: > 38890ppm) (ACGIH 7th, 2001)に基づき、区分外とした。

吸入(蒸気): GHSの定義による気体

吸入(粉じん、ミスト): GHSの定義による気体

《皮膚腐食性/刺激性》

ACGIH(7th, 2001)のヒトでは軽度の紅斑のみが一過性に認められ、皮膚一次刺激性は無視し得る程度であったとの記述から、区分外とした。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

データなし

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性: データなし

皮膚感作性: データなし

《生殖細胞変異原性》

in vitro試験のデータのみのため分類できない。

《発がん性》

データなし

《生殖毒性》

データなし

《特定標的臓器毒性》(単回暴露)

ACGIH(7th, 2001)のヒトへの影響として麻酔作用を示すとの記述から、区分3(麻酔作用)とした。

《特定標的臓器毒性》(反復暴露)

データなし

《吸引性呼吸器有害性》

GHSの定義による気体

・ イソブタン

《急性毒性》

吸入(ガス): マウスのLC50値(1時間)は124000 ppm (4時間換算値: 62000 ppm)、52 mg/L (4時間換算値: 11000 ppm)(いずれもACGIH (2004))、であるとの報告に基づき、区分外、区分4に該当するデータが各1つであることから、区分4とした。

《皮膚腐食性/刺激性》

ヒトにおいて、ガス状の本物質は皮膚に対し刺激を与えない(DFGOT vol.20 (2003))との記載から、区分外とした。なお、液化した本物質は皮膚に凍傷(chemical freezing)を起こす(DFGOT vol.20 (2003))との記載がある。

整理番号	ニューガラスC&C 420ml × 24/CS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11. 08

《眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性》

ヒトにおいて、ガス状の本物質は眼に対し刺激を与えない(DFGOT vol.20 (2003))との記載から、区分外とした。なお、液化した本物質は眼に凍傷(chemical freezing)を起こす(DFGOT vol.20 (2003))との記載がある。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:

皮膚感作性データなし

《発がん性》

データなし

《生殖細胞変異原性》

in vivo における試験データはなく、エームス試験の陰性結果(DFGOT vol.20 (2003))のみであるため、分類できないとした。

《生殖毒性》

データなし

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

ヒトにおいて、8人のボランティアによる吸入ばく露試験では影響はみられない(許容濃度提案理由書(1988))が、本物質は「心臓におけるカルシウム感受性増強物質」との記載があり(ACGIH (2004)、PATTY 5th vol.4(2001))、イヌを用いた吸入ばく露試験において、用量70000 ppmで5分間のばく露(4時間換算値:10083 ppm(ガイダンス値の区分2の範囲内))により、心筋の強心作用がみられる(DFGOT vol.20 (2003))ため、区分2(心臓)とした。また、マウスを用いた吸入ばく露試験において「中枢神経系の抑制」(ACGIH (2004))、「麻酔作用」(DFGOT vol.20 (2003))との記載、イヌを用いた吸入ばく露試験において「感覚消失」(ACGIH (2004))との記載があり、区分3(麻酔作用)とした。なお、「本物質は単純窒息性(simple asphyxiant)であり、急性ばく露では頻呼吸及び頻拍を起こす可能性がある」(PATTY 5th vol.4(2001))との記載がある。

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

ボランティアによる2週間吸入ばく露試験において、「全般的に大した変化は認められない」(許容濃度提案理由書(1988))との記載があり、サルを用いた90日間吸入ばく露試験においても影響は認められない(EMEA/MRL/031 (1995))が、試験内容の詳細が不明であり、これらの他に試験データはないため、分類できないとした。

《吸引性呼吸器有害性》

GHSの定義におけるガスである。

・ 非イオン系界面活性剤

《急性毒性》 : 経口、マウス、LD50:> 10g/kg

皮膚腐食性・刺激性 : 皮膚刺激:ヒト、5%、軽度

眼に対する重篤な損傷・刺激性 : 目刺激:ウサギ、30%、無作用

《呼吸器感作性》又は《皮膚感作性》 : ジエタノールアミンに関する《皮膚感作性》で、モルモットの試験(そのうちの1の試験はOECD試験ガイドライン406に基づく試験)において、《皮膚感作性》が認められなかった(ACGIH(2001)、IUCRID(2000))こと、及びヒトにおける2つのパッチテストにおいて皮震感作性が認められなかったと記載されている。

《特定標的臓器》・全身毒性-単回暴露: ジエタノールアミンに関するラットの経口投与試験で、区分1のガイダンス値範囲内の投与量で麻酔作用(鎮痛作用、運動失調)及び肝障害(重量増加、血清トランスアミナーゼ及びその他の肝臓酵素の増加、混濁腫脹と空胞変性、小胞体とミトコンドリアの損傷)が見られたと記載(ACGIH(2001))されている。一以上の情報に基づき、区分1(肝臓)、区分3(麻酔作用)とした。

《特定標的臓器毒性》反復暴露: ジエタノールアミンに関するラットの試験で区分2のガイダンス値範囲内の用量で肝臓及び腎臓の重量増加と腎症が記載(PATTY(5th, 2001)、ACGIH(2001))されている。また、赤血球数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値の減少などの貧血を示すデータ及び脳、脊髄の脱髄が記載(ACGIH(2001))されている。ヒトでは、肝臓及び腎臓に影響を及ぼすことが記載(ICSC(Jp2002))されている。一以上の情報に基づき、区分2(肝臓、腎臓、中枢神経系)とした。

整理番号	ニューガラスC&C 420ml × 24/GS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11. 08

・ 陰イオン系界面活性剤

《急性毒性》

経口:ラットを用いた経口投与試験のLD50値1,200 mg/kg (SIDS(1991))、2,730 mg/kg (EHC 169(1996))のうち、低い値1,200 mg/kgから区分4とした。

経皮:ウサギを用いた経皮投与試験のLD50値 約600 mg/kg (SIDS(1991))、580 mg/kg (EHC 169(1996))から、区分3とした。

吸入(ガス):GHS定義上の固体であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。

吸入(蒸気):データなし

吸入(粉じん、ミスト)データなし

《皮膚腐食性/刺激性》

ウサギを用いた皮膚刺激性/腐食性試験(OECD TG 404、GLP)において、PII:6.0、6.78から「highly irritating」(ECETOC TR66(1995)、IUCLID(2000))と記述されているが、回復性に関する記述がないので区分2とした。

《眼損傷性/刺激性》

ウサギを用いた眼刺激性/腐食性試験(OECD TG 405、GLP)において、「Modified Maximum Average Scores: 16.00; moderately irritating, 59.17; irritating, 60.50; irritating」(ECETOC TR48(1992)、IUCLID(2000))と記述されているので区分2とした。

《呼吸器感作性》:データがないので分類できない。

《皮膚感作性》:モルモットを用いたMaximization 試験で《皮膚感作性》を示さない(ECETOC TR77(1999))と記述されているので区分外とした。

《生殖細胞変異原性》

生殖細胞in vivo変異原性試験の小核試験で陰性(SIDS(1991)、EHC 169(1996))と記述されているので区分外とした。

《発がん性》

主要な国際的評価機関による評価がなされておらず、データが不十分なので分類できない。

なお、「長期試験は行われているが、《発がん性》評価には不十分である。動物に混餌投与した試験では、アルキルサルフェイトの《発がん性》の証拠は得られなかった」(EHC 169(1996))旨の記述がある。

《生殖毒性》

EHC 169(1996)に記載の一次文献(東京衛研年報(1976))によると、「マウス皮膚塗布による催奇形性試験において、母動物の体重増加が抑制された用量で、受胎率の低下、胎仔重量が低下し、発育遅延を認めた。口蓋裂や骨化遅延もみられるが有意なものではなく、本実験の口蓋裂の発生や着床の問題も含め、経口投与での試験の必要性がある」旨の記述があり、データ不足から分類できない。

《特定標的臓器毒性》(単回暴露)

マウス、ウサギ、モルモットでのエアロゾル暴露で気道刺激性がみられる(IUCLID(2000))、短期暴露で気道刺激性がみられる(ICSC(1997))との記述から区分3(気道刺激性)とした。

《特定標的臓器毒性》(反復暴露)

ラットを用いた2週間混餌投与試験において「肝臓重量増加がみられたラットの病理組織検査で、肝細胞がわずかに腫脹し分裂肝細胞数が増加していた。これらは本物質の投与に順応したものと考えられる。また、腎尿細管の上皮細胞の空胞変性、腎糸球体の萎縮がみられた」(EHC 169(1996))旨の記述がある。これらの症状は区分2のガイダンス値の範囲内で見られているが、肝臓における症状は、本物質の投与による有害影響とは考えられないので採用せず、区分2(腎臓)とした。

なお、ウサギを用いた3ヶ月間経皮投与試験では「用量依存性の皮膚刺激性がみられた」(EHC 169(1996))旨のみ記述されている。

《吸引力呼吸器有害性》

データなし

整理番号	ニューガラスC&C 420ml × 24/GS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11. 08

1 2. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ プロピルアルコール

《水生環境有害性》(急性)

魚類(ヒメダカ)の96時間LC50 > 100mg/L(環境省生態影響試験、1997)から、区分外とされた。

《水性環境有害性》(慢性)

離水溶性でなく(水溶解度 = 1.00 × 106mg/L(PHYSPROP Database、2005))、急性毒性が低いことから、区分外とされた。

残留性・分解性 分解性 BOD5: 0.16O₂/g IPA(7%)

BOD20: 1.68O₂/g IPA(70%) 理論的酸素要求量: 2.4gO₂/gIPA

蓄積性：ない

魚毒性

LC50 fathead minnow 11130mg/L(96h) 注)LC50: 50%致死濃度

・ ノルマルブタン

《水生環境有害性(急性)》

データがなく分類できない。

《水生環境有害性(慢性)》

データがなく分類できない。

・ プロパン

《水生環境有害性(急性)》

データがなく分類できない。

《水生環境有害性(慢性)》

データがなく分類できない。

・ イソブタン

《水生環境有害性》(急性)

データなし

《水性環境有害性》(慢性)

データなし

・ 非イオン系界面活性剤

生態影響

魚毒性:ヒメダカ、TLm48:<10ppm

残留性/分解性 ; 生分解率:>98.7%

BOD:105ppm(100ppmaq.)

COD:61ppm(100ppmaq.)

・ 陰イオン系界面活性剤

《水生環境有害性》(急性)

甲殻類(アメリカンロブスター)の96時間LC50 = 0.72mg/L(SIDS, 1997)から区分1とした。

《水性環境有害性》(慢性)

急性毒性区分1であるが、急速分解性があり(SIDS, 1997)、生物蓄積性が無い(LogKow = 1.6, PHYSPROP Database, 2008)と推測されることから区分外とした。

オゾン層への有害性： データなし

1 3. 廃棄上の注意

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

整理番号	ニューガラスC&C 420ml×24/GS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11.08

14. 輸送上の注意

国際規制：

国連分類

クラス2.1 引火性ガス

国連番号

1950 エアゾール類

容器等級： 該当しない

海洋汚染物質： 非該当

国内規制：

容器イエローラベル

126 気体-圧縮又は液化（冷気気体を含む）

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・「火気注意」
- ・容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・荷くずれ防止を確実に行う。
- ・該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・直射日光を避ける。
- ・水漏れ厳禁。
- ・横積み厳禁。
- ・夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

15. 適用法令

火薬類取締法：

対象外

高圧ガス保安法：

エアゾールの為非該当

消防法：（ ）内は、指定数量

非危険物（指定可燃物 可燃性液体類）

毒物及び劇物取締法（毒劇物取締法）：

該当物質は含むが規定量以下のため非該当。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

労働安全衛生法：

表示対象物質を含有する。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

通知対象物質を含有する。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

労働安全衛生法（有機溶剤中毒予防規則）：

非該当 該当成分は含有するが、5%以下のため非該当（詳細 3. 組成、成分情報を参照）

労働安全衛生法（危険物）：

引火性の物

可燃性のガス

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法（PRTR法）：

非該当 該当物質は含有するが、1%未満。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

整理番号	ニューガラスC&C 420ml×24/GS	作成日	2009年2月10日
1788-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月22日

Ver. 11.08

16. その他の情報（参考文献等）

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
JIS Z7253:2012

GHS分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ）

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA（日本オートケミカル工業会）編集：化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版（日本オートケミカル工業会）

危険物船舶運送及び貯蔵規則（海文堂）

※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。